

旭川空港脱炭素化推進計画の概要



1. 基本的な事項

○空港の特徴

- ・旭川空港は北海道上川郡東神楽町と旭川市にまたがる丘陵地に立地し、空港周辺は農地等が広がっている。
- ・2,500m滑走路1本と旅客ターミナルビル1棟等を有し、乗降客数108万人、航空貨物5,403ト、離着陸回数6,179回（2019年度）を取り扱っている。

○空港脱炭素化に向けた方針

- ・照明、灯火のLED化及び建物の省エネルギー化のほか、太陽光発電設備や蓄電池設備といった再生可能エネルギーの導入及び空港車両のEV化・FCV化に取り組む。

2. 温室効果ガスの排出量

区分	温室効果ガス排出量[t/年]	
	2013年	現状(2019年)
空港施設	4,038	3,146
空港車両	516	565
空港施設・車両 計	4,554	3,711
航空機(参考)	6,445	5,093
空港アクセス(参考)	2,021	2,077

3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度	2013年度比 48.0%削減
2050年度	カーボンニュートラル

4. 主な取組

- ・2030年度：ターミナルビル等の照明LED化や空調設備の高効率化による省エネ、航空灯火のLED化、太陽光発電による再生可能エネルギーの導入。
- ・2050年度：太陽光発電設備の拡充・蓄電池の導入、空港車両のEV化・FCV化・バイオ燃料利用の検討。



5. その他の取組

◆吸収源対策

再エネ設備設置に適さない空港未利用地等への植林、植栽形成を検討する。

◆意識醸成・啓発活動等

現在行っている事務所内の節電、空港内の徒歩・自転車移動の促進、ペーパーレス化の促進を継続するほか、各事業者が連携して紙廃棄物のリサイクルを推進するなど、環境負荷削減に努めるほか、空港脱炭素化ポスター掲示等による周知・啓発の実施。